

研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&FAX : 0595 (21) 8839

E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp



研修講座 B-1 特別支援教育【4回連続講座】②を実施しました！

「通常の学級における支援の必要な子の環境整備と指導方法について」

【講師】 東京都日野市教育委員会 特別支援教育総合コーディネーター

宮崎 芳子先生

6月30日（金）に、研修講座「特別支援教育【4回連続講座】②」を実施しました。講師として、東京都日野市教育委員会 特別支援教育総合コーディネーターの宮崎芳子先生をお迎えし、「通常の学級における支援の必要な子の環境整備と指導方法について」と題し、ご講義いただきました。

はじめに、特別支援教育の基本は多様性の尊重であり、共生社会を担う子どもの育成は学校の義務であるという話があり、学校そのものが共生社会となるよう努めていかなければいけないと感じました。

次に、通常学級に在籍する特別の支援を必要とする児童・生徒が10年前よりも増加しているという話から、通常学級での特別支援教育について東京都日野市の具体的な取り組み（ひのスタンダード）から大きく二つのことについて学びました。

一つ目は、学級環境についてです。学級環境の一番は「人環境」であり、違いを認め合う学級、「わからない」「助けて」と言える学級、失敗やまちがいをいかす学級にしていくことが大切であるという話から、クラス内での理解を促進していくことの重要性を改めて確認することができました。



二つ目は、授業のユニバーサルデザイン化についてです。「学びにくさ」のある児童・生徒から想定されるつまずきを考え、個への指導だけを考えるのではなく、全体への指導を工夫することです。具体的には、目標の焦点化、共有化、視覚化、授業展開の工夫（導入でのしかけ、考えられるしかけ、山場の設定、まとめでの言語化）を行うことで、できる限り聞く時間を減らし、主体的に考える時間を増やしていくことが大切であることを学びました。本講座で学んだことを還流いただきますようよろしくお願いいたします。

アンケートより【一部抜粋】

- ・全ての子どもが学びやすい環境や授業の流れ、指導の工夫がどのクラスでも必要であると改めて感じました。私自身が多く話してしまうことが多いため、子どもが聞いている時間を減らし、子どもたちが考えていける最低限の言葉で進めていけるように意識して授業を組み立てていきたいと思いました。(小)
- ・疑似体験を通して、音韻をイメージできないものについては生徒だけでなく私たちも難しいと感じることができました。普段の自分の授業の様子を振り返りながら次はこうしたらいいかもしれないと考えることができました。(中)
- ・視覚化など様々な工夫はありますが、子どもたちが主体的になる、ワクワクするという全ての子にあてはまるように授業づくりをすることがユニバーサルデザイン教育につながるなという発見がありました。(県立)

